

平成 28 年度 美浜区 区民対話会 (H29. 1. 28 開催) 議事録

1. 日時 平成 29 年 1 月 28 日 (日) 10:00~12:20
2. 場所 美浜区役所 4 階 研修室 3
3. 参加者 区民 9 名、区職員 4 名
(参加区民の所属団体) 幕張西・浜田地区及び稲毛海岸地区の町内自治会 6 団体
4. テーマ
ー町内自治会の活動についてー
※今回は、現役世代の方々(仕事をしながら自治会活動を行っている方)をお招きし、自治会活動の現状や課題など様々なご意見をいただきました。

5. 議事内容

(1) 開会

(2) 区長あいさつ

対話会の目的等の説明及び配布資料により、美浜区の統計データや課題を説明。

(3) 対話テーマ「町内自治会の活動について」及び自己紹介

対話テーマを大きく 3 つに分け、参加者 9 名全員 (A 氏~I 氏) から、それぞれお話を伺いました。

①自治会活動の「きっかけ」について

- ・自治会活動を始めたきっかけは？
- ・新たに立ち上げた行事等がありますか？
- ・地域の他団体との交流や連携はありますか？
- ・自治会に未加入の方へ、加入の働きかけは？

(ご意見等)

A 氏：

- ・自治会活動をはじめたきっかけは子どもが生まれたこと。今、住んでいるこの場所が子どもにとっては、「ふるさと」になるのだと感じていた。その折、夏祭りのお手伝いのお話があり、子どもの良い思い出になればと思い、自治会活動に参加した。
- ・祭りのほか、ファミリー運動会というのがあるが、子どもの笑顔を見ていると参加して良かったと感じた。それがモチベーションにもなり、自分の子どもだけでなく、地域の子もたちが喜んでくれる地域になればという想いから、今後も活動を続けていきたいと感じている。
- ・他団体との交流は、隣のマンションとイベントでの交流などあり、現在では懇親会なども行う関係性が築けている。

- ・当地域はいわゆるパパママ世代が多く、昔と比べて父親が子どものイベントに参加する機会が増えていると感じている。そのため、母親だけでなく、父親がお手伝いに参加する機会も多いので、そうしたところから自治会への加入を働き掛けるのが良いのではないかと思う。

B氏：

- ・自治会活動を始めたきっかけは、数年前に抽選で管理組合の理事会を手伝うことになったことを機に、地域活動が面白いと感じるようになった。しかし当時、自身のマンションには自治会がなかったため、近隣自治会から指導を受け、自治会を発足し、活動を開始した。
- ・自治会活動をとおして、自分たちで町を良くする、住みやすくする、変えることができるのだということが分かり、今では自治会を発足して良かったと感じている。
- ・例えば、実績として、子どもルームの設置（ルーム不足の早期解消）をすることができた。これは、この問題を抱える母親たちと協力し、市長へ要望書を提出するなどして実現したもので、住民の皆さんから感謝の言葉をいただき、活動を開始してよかったと感じた。
- ・自治会への加入の働きかけは、年に数回程度で実はあまり行っていない。一方、管理組合の理事会の役員が自治会の役員も兼ねるという手法について、管理組合で承認を得ることができ、自動的に自治会の加入者が増える仕組みができています。

C氏：

- ・当マンションは、管理組合の理事と自治会の役員が一緒に兼務しており、制度上も管理組合のまま自治会として活動する「みなし自治会」として区役所に届け出している。私自身も管理組合の理事長となったことをきっかけに、自治会の活動に携わり、会長を務めることとなった。
- ・会長職を長く務めることはメリットもある反面、個人の特性に対して懸念を招く恐れもあるため、将来を見据え、現在は会長職を離れて顧問という立場からサポートしている。
- ・理事会で行うイベントを、なるべく自治会のイベントであると認識してもらうよう努めている。
- ・当地域は、マンションエリアの目の前に戸建エリアが存在しているのだが、戸建エリアは自治会に全く加入する意思を持たない。先代の会長からは、この両エリアが一緒に活動し交流できればとの思いから自治会を結成したときいているが、なかなか思いが伝わらず、逆に勧誘することについて煙たがられる状況。
- ・このような事から地域での働きかけがもちろん大切であるが、もっと自治会に関心を持ってもらう仕組みづくりが必要であり、行政からの働きかけにも期待したい。
- ・個人的な意見だが、例えば、自治会の有無で行政サービスの優先順位など、何か「差」をつけることで、自治会に加入するメリットをしっかりと明確にすれば、自治会に関心を持ってもらえるようになるのではないかと感じている。

D氏：

- ・正直、もともと自治会という組織には良いイメージがなく、あまり好感を持てなかった。
- ・自治会を立ち上げたきっかけは、自身が管理組合の理事長のときに、地域の運動会で自治会対抗の競技があり、肩身の狭い思いをしたことから、何とか自治会を立ち上げようと考えた。
- ・実際に立ち上げようとした際、立ち上げる思いはあるが、何をどうしたらよいのか分からなかったため、自治会の立ち上げ方法のセミナーなどがあると良いのではないかと感じた。
- ・立ち上げをするには住民の意識を把握する必要があると考え、アンケートを実施した。このアンケートに要する費用の捻出には、管理組合の理事会と協力をした。
- ・現在では、お祭りなどで近隣自治会や地域団体と交流を図っている。

- ・自治会加入への働きかけは、なかなか難しい。一番のネックは、会費。加入したくない人は、会費や行事への参加を負担だと感じている。
- ・自治会に興味を持ってもらうためにも、自治会の特色や各種条件を明確に示すことが大切であり、当マンションではビラ配りにより周知を図っている。その他、イベントへのお手伝いをお願いするなど、自治会の活動を知ってもらう機会づくりに努めている。

E氏、F氏：

- ・管理組合から自治会への輪番制であり、今年から自治会長となったが、当初はそもそも何をしているのかも分からない状況であった。
- ・自治会長として各種組織への会議等に参加する機会があるが、正直なところ、諸先輩方と若い世代との発言力に相違を感じている。また、諸先輩方を見ていると、豊富な経験に基づく阿吽の呼吸で物事が進んでいく場合があるが、経験の少ない若手にとっては、そうした体制に不安を感じてしまうこともあるのではないか。
- ・まずは、発言力など若い世代とのギャップを埋めること、また、世代や役員が交代した場合にも、しっかりと自治会を運営していけるような仕組みづくりが必要である。
- ・今、実際に震災が発生したらどうになってしまうのかも不安である。いざとなれば行政等が何とかしてくれるだろうと思っている方も多いのではないか。
- ・そもそも若い世代には、自治会の仕組みがわからず理解されていない。自治会長になると、地域の各団体からの依頼や役割分担があるなど負担もある。
- ・いざという時のために自治会が必要だということは理解できるが、自治会の必要性や自治会の立ち上げ方法の発信、マニュアルの整備など、行政からの一層の周知が必要なのではないか。

G氏：

- ・東日本大震災を見て、こんなことになったらどうなるのだろうと思った。その時、昔、実家の近くの川が氾濫したとき、ご近所同士が力を合せていたのを思い出した。いざという時のためにも、自治会を作らなければという想いに至った。
- ・管理組合で自治会もやろうと考え、その方針が管理組合でも承認され、自治会発足が実現した。従って、当マンションの自治会加入率は100%である。また、管理費の一部を自治会費として計上しているため、集金の不便さはない。
- ・現在は自ら立候補して自治会活動に携わり、会長のサポートをしている。私自身、自治会活動が好きだということもあるが、「やるからには楽しく」の精神で活動している。

H氏：

- ・私は仕事柄、地域の高齢者の方などと接する機会があるのだが、地域から孤立してしまっている方が多い傾向にあると感じている。こうした方には、ご近所付き合いや顔見知りを増やすことが大切だと思う。また、私自身が高齢者となったとき、ご近所の顔も知らないのは寂しいと感じるし、何かあった時には困ってしまうのではとの不安もあり、自治会の立ち上げを考えた。
- ・自治会の立ち上げには課題もあった。管理組合があるから自治会は必要ないだろうという意見や、会費の集金をどうするか、払わない方にどう対応するかなどが大きな課題となった。その折、東日本大震災の発生が契機となり、自治会の発足が実現した。
- ・自治会の会長になって驚いたことは、地域の諸団体から次々と役割が回ってきたこと。個人の負担があまりにも大きくなってしまうので、現在は自治会のメンバーに役割を分担している。
- ・しかし、行事の運営の際の実働部隊など、核となって動いてくれる仲間がまだまだ少ないこと。

今後どのように増やしていくかが課題である。

I氏：

- ・自治会ができたのは、地区全体の夏祭りがきっかけである。夏祭りでお菓子を配るイベントがあった際、当時、自治会のなかった当マンションの子どもたちが大挙として押し寄せるといった事件が勃発した。主催者側からは、子どもに罪はないとの言葉をいただいたが、さすがにこのままという訳にはいかないだろうということで、自治会を立ち上ることとなった。
- ・現在の活動は、お祭り等のイベント系、スキーツアー等のツアー系、防災訓練やAED講習等のセミナー系など、大きく分けて3つの活動をしている。
- ・新たに立ち上げた行事としては、近隣マンションと協力し、約1,400世帯からなる区域にて、新しくお祭りを立ち上げた。そのお祭りでは、近隣の神田外語大学や幕張総合高校にも参加してもらい広く交流を図っている。
- ・当マンションでは、管理組合と併せて自治会へも自動的に加入する仕組みとなっている。自治会は任意団体であるので、退会の規定も設けてあるが、現在のところ退会者はいない。みんなが満足できる充実した活動を盛んに行うことで、加入者にも納得していただけるものと理解している。

②自治会活動の「いま」(内容)について

- ・日頃、どのような活動をしていますか？
- ・よかったこと、やりがいがありますか？
- ・困っていること、課題はありますか？
- ・仕事をしながらの自治会活動は、大変ですか？

(ご意見等)

A氏：

- ・単位自治会としては、あまり行事やイベントを増やしていない。ある程度、活動を制限することで、将来に向けて負担が増えすぎないように調整している。そのため、仕事をしながらでも活動に参加できている。
- ・知り合いが増えたこと、いろいろな活動や団体との交流が生まれるなど、やりがいはある。
- ・課題は、地区組織の運営方法等、既存の仕組みに不安を感じる点。その仕組みを変えたいが、変えるための活動に伴う負担が増えてしまう懸念がある。個人としてはやっても良いと思ってはいるのだが、今後、役員になる方たちの負担になってしまう可能性があることを考えると手を出しづらい状況である。

B氏：

- ・AED講習を開催した際など、感謝の言葉をいただけることは、やりがいになる。また、昨年初めて、クリーン活動を実施したが、予想以上に多くの人が集まり、大変嬉しく感じた。
- ・自治会活動をとおして、知り合いや顔見知りが増え、これまでモノクロに見えていた町に色がつき、カラーに見えるようになった。
- ・自治会活動の先輩から「自治会活動は、子どもたちにとっては、ふるさとづくりだ」という言

葉を聞き、本当にそのとおりだと感銘を受けた。

- ・課題はやはり仕組みづくりである。一般論ではあるが、各世代間での意見の相違、くい違いはどうしてもある。以前より長く活動してきた方は、豊富な経験から雰囲気や物事を進めていくことができたと思うが、これから将来は以前のようにはいかず、困ることもでてきてしまうのではないかと感じている。
- ・活動を意識的に抑えていることもあり、仕事しながらでも活動はできている。

C氏：

- ・いろいろな役割を任せられているため、平日の召集もあり、スケジュールや時間の調整には苦慮している。いずれは、IT ツール等を活用して効率的に運営が出来るようにしたい。
- ・課題は、既に詳しい人に頼りすぎていること。実経験に長く携わる事で、作業効率が図れる事のメリットもあるが、いつかは偏りが生じて運営が難しくなってくるのではないかと懸念している。
- ・また、同じ小学校の学区内の地域において、一方には自治会があり、一方には自治会がないというのはバランスが悪い。例えばセーフティウォッチャーを例にとると、自治会の有無によって負担の差が生じてしまう可能性があるのはよろしくない。自治会がないエリアから選出を優先されるなど、何かよい仕組みはないものかと模索している。
- ・自治会活動に関わる事にやりがいはあると思うが、もう少しうまく活動できないものかと感じている。行政にももっと協力してほしい。

D氏：

- ・近隣自治会と協力するため、それぞれの主要メンバーが LINE で連絡を取り合い、いつでも相談できる体制ができている。そうした近隣との交流が生まれたことはとてもよかった。
- ・課題は会長への負担。会長になると各種組織の会議等へ出席が増えるが、子育て世代の会長などには負担になると思う。そういった意味では、仕事をしながらはやはり大変だと感じる。
- ・そうした負担が一人に偏らないような工夫が必要だと感じている。

E氏：

- ・自治会活動に参加してみて、高齢者の方がどのくらい住んでいるのか、あの方は一人暮らしなのかなど、自身のマンションの事を知ることができたことはよかったと感じている。
- ・課題としては、災害対策。災害時には公民館に集まることになっているのだが、避難所を運営する委員会がなく、近隣のマンション同士で何とかしたいと話しが出てはいるが、各マンションとも役員が輪番制であり、なかなか話が進まず苦慮している。
- ・仕事をしながらはやはり大変かなと思う。役員が仕事をしている人だけだと大変かと思うので、時間的に余裕がある方が数名入るなど、バランスを取ることが大切だと感じている。
- ・また、会議などは面倒だと言う方もいるが、お祭り等の大きなイベントの際には、お手伝いできるよという方もいるので、そうした方と協力して、うまく分担ができればよいのではないかと。

F氏：

- ・自治会の活動をしていなければ、自身の子どもの通う保育園での親同士の繋がりだけであった。保育園以外の人との繋がりができ、自身が住む町を知るきっかけになったことはよかったと感じている。
- ・自身が住む町を知るためにも、自治会には参加したほうが良いなどは感じている。

G氏：

- ・普段から、自治会関係の会議や行事に出席し、それが当たり前になっているため、負担が重いとは感じていない。極論だとは思いますが、個人的には、住んでいるのだから、むしろそれくらいやって当たり前と思っている。
- ・活動をしていて嬉しいと感じることは、ご近所の方々の事情を知ることができたことや、子どもたちから声を掛けてもらえること。
- ・昔の田舎のように、ご近所同士で仲の良い関係が生まれるようになれば良いと思う。また、行事等のお手伝いなどをきっかけに、協力してくれる仲間を増やしたいと思っている。

H氏：

- ・会長職としては、役割を振られるというのはあるが、マンションの中で顔見知りが増えたことや地域を知ることができてよかったと感じている。いつ災害が起きるかも分からないので、顔見知りができることは、とても良いことだと感じる。
- ・少し困るのは、家庭の中で、また今日も自治会の集まりに行くのか、子どもからは遊んでくれないのかと言われてしまうことがある。
- ・仕事と自治会の両立となると、転勤族の方などは負担に感じるのかもしれない。私自身も平日の行事にはほとんど顔を出せないのが、負担が一人に偏らない工夫が大切だと思う。

I氏：

- ・役員が輪番であり、毎年メンバーが変わる。自治会が面倒だという方もやはりいるので、私自身は、そうした方を引っ張る立場にあると感じている。
- ・やるからには楽しくやりたい。「やっている人が楽しくないと、行事に参加する人も楽しくない」ので、みんなが楽しめる行事づくりをしたい。
- ・当マンションは現役世代が多いことを逆手にとっている。様々な職種や分野の方がおり、誰がどんな職種なのかくらいは分かってくるので、それぞれの得意分野をうまく活用している。
- ・楽しくやって仲間を増やせば、メンバーが変わっても経験者が助けることができるし、さまざまな職種の人材を確保できる。
- ・現役世代は、平日に参加できないのは仕方がない。平日は年配の方に任せるなど、分担することが大切である。

③自治会活動の「これから」について

- ・新たな行事の計画や、やりたい事はありますか？
- ・どんな自治会（地域）になると良いですか？
- ・自治会未加入の方に、どんなことを伝えたいですか？
- ・自治会を立ち上げることは、おすすめですか？

(ご意見等)

A氏：

- ・自治会は地域でのコミュニケーションが図れて良い。しかし、嫌がる人がいるのも事実。
- ・大切なことは、活動の内容を正しく伝えていくこと。その中で、個人個人にしっかりと判断してもらおうことが重要だと考えている。

B氏：

- ・真逆の意見もあると思うが、今のところ活動内容を大きく増やす計画はない。今後は、一つ一つの活動の質を高めていきたい。それにより、加入者数を増やしたいと考えている。
- ・自分からコミュニティを広げたいという方が少ない傾向にあると感じているので、自治会のメリット、デメリットをしっかりと伝えていきたい。
- ・近い将来、高い可能性で大震災が起こると言われている。そうした災害等の緊急時には、やはり自治会が非常に大切になるであろうと感じている。

C氏：

- ・防災対策にプライオリティをつけている。当マンションでも防災対策、体制が弱いと感じており、防災対策を強化するため、新たな体制づくりを計画・検討している。
- ・一緒に活動する仲間を増やすことが何よりも重要だと感じている。それを実現するためには、地域での努力はもちろんのこと、行政からの指導による働きかけも必要です。地域の活性化や防災対策に注力するためには、例えば、自治会加入の有無によって行政サービス（補助支援の有無だけでなく、行政が自治会に委託する業務、提供する情報等）に優先順位を設けるなど、ある程度の強制力を持って、自治会への加入促進を図る必要があるのではないかと。

D氏：

- ・当地区では、新しいマンションエリアと古くからの団地のエリアがあり、高齢世代と若い世代がエリアで分かれており、バランスが悪い面がある。この状況を解消するため、また良い意味でうまく活用するため、地区全体での新たなイベント「秋祭り」を計画している。
- ・高齢世代・先輩方の知識や知恵と、若い世代の実行力やパワーを結集し、「秋祭り」を実現することで地域コミュニティのさらなる強化を図りたいと考えている。
- ・独居老人や孤独死というワードを聞くとやはり不安である。日頃からのご近所での助け合い、コミュニケーションの必要性を考えると活発な自治会活動が大切だと感じる。

E氏：

- ・年配の方も若い方も、地域みんなが何かしらの役割をもった町になると良いと考える。
- ・例えば、子どもの通学路には危険な箇所もたくさんあるので、下校時などPTA等の保護者の方が見守りをしているが、この役割をご年配の方々に協力しただけで良い。決まった場所に時間どおりに立っていなくても、近くに居て何か別のことをしているだけでも良いだろう。
- ・みんなが出来ることを協力し合えば、地域が目も増え、それが安心安全に繋がり素晴らしい町になるのではないかと。

F氏：

- ・少子高齢化を逆手に取れば良いのではないかと。年配の方は家に籠っているのはあまり良くない。日常生活の中で役割があり、その中で自然と頭を使って身体を動かす、そうしたことが大切であると日頃から感じている。
- ・現役世代だけでは人手が足りないのです。高齢者の方が子どもの見守りをやっても良いと思う。核家族が多い中、そうした高齢者との交流も子どもたちにとって良い経験になる。
- ・世代間で上手な役割分担ができるような仕組みが必要であると切に思う。

G氏：

- ・今後は一緒に活動してもらえ信頼できる仲間を増やしていきたい。
- ・子どもが多いので、子どもが楽しんで遊べるような環境にしたい。そのためにも、何でも頼め

る仲間を増やしたい。

- ・また、防犯面も気がかりである。夜は子どもだけでは歩けないような公園もあり、安全安心のためにも自治会は大切である。
- ・高齢者などが外に出ないのは、便利すぎるせいもあるのではないか。最近はインターネットで何でも買えるので、外に出る機会が減っているのかもしれない。そうした方を外に出す工夫も必要だと感じている。これからもやり方をいろいろと考えていきたい。

H氏：

- ・高齢化や子育て、防災にしても、支えあいの体制が重要です。そうした体制づくりのためにも、良い意味で既存の自治会という制度を利用することが手っ取り早い一つの方法だと伝えたい。

I氏：

- ・共助公助、災害時の自助が大切。市の財政も厳しいようなので、行政を当てにせずに、自分たちで何とかしていこうと考えている。
- ・PTAが見守りをやるのも良いが、高齢者の方がやってもよいと思う。大事なことは、各々がやれることをやること。そしてやるからには、楽しんでやること。
- ・加入の働きかけには、会費の問題があると思う。お金の使い道など、今の時代は厳しい目がある。これには、積極的に活動を行ってアピールすることで、納得し認めてもらう、そうした仕組みづくりが重要である。

(4) 質疑応答

- ・対話の流れ上、質疑応答は特になし。

(5) 閉会